

ふじみ野市史

ふじみ野市誕生20周年記念 2005▼2025

はじめに



ふじみ野市長 高畑 博

ふじみ野市は、平成17（2005）年10月1日に「旧上福岡市」と「旧大井町」が合併して誕生し、令和7（2025）年をもちまして誕生20周年を迎えました。

今日に至るまで、ふじみ野市を愛し、支えてくださった市民の皆様をはじめ、市の発展にご尽力いただいた全ての皆様に心から感謝を申し上げます。

ふじみ野市は、武蔵野台地と荒川低地にまたがり、都心から30キロ圏内に位置しながらも、武蔵野の面影を残す畑や雑木林など、緑豊かな自然環境が広がっています。

顧みますと、江戸時代、市を南北に通る川越街道沿いには大井宿が栄え、北部の市境に沿って流れる新河岸川沿いには、川越と江戸を結ぶ舟運の拠点がおかれ、にぎわいをみせていました。その後、農村地帯として伸展し、昭和30年代半ばからは住宅開発の進行や企業の進出が続き、急速に都市化が進みました。そして、

現在においても市内の至るところで開発が進められており、子育て世代を中心に転入が多く、今後も人口が増加することを見込んでいます。また、市の玄関口である東武東上線土曜駅は、1日の乗降人員数が約4万8000人であり、交通・生活の利便性を兼ね備えたまちへと発展してまいりました。

合併後の20年間においては、少子高齢化や物価高騰といった社会情勢の変化に加え、新型コロナウイルス感染症の流行は、これまでの生活環境を一変させました。そのような中であっても、本市においては、市民の皆様と力を合わせ、発展へと続く道のりを一歩一歩堅実に歩んでまいりました。『ふじみ野市史』は、合併から20年間における、ふじみ野市が皆様とともに歩んできた軌跡をまとめたものです。成長を続けるふじみ野市にとって、先人たちが築き上げてきたふじみ野市の歩みを振り返り、今後の更なる発展に資する貴重な資料となります。本書を通じて、ふじみ野市への愛着を深め、明るい未来を切り開く一助となれば幸いです。

私たちを取り巻く社会情勢の変化は尽きることがありませんが、その変化に柔軟に対応し、皆様が安全で安心した市民生活を送ることができる市政運営を行うことが肝要です。これからも、「人がつながる 豊かで住み続けたいまち ふじみ野」を将来へ連綿と繋いでいくことができますよう、取り組んでまいります。

最後に、本市史の編さんにあたり、ご監修いただいた諸先生をはじめ、ご協力いただいた全ての皆様に御礼申し上げます。発刊の挨拶といたします。

もくじ

はじめに ふじみ野市長 高畑 博…………… 1

凡例…………… 8

第2節 ■ ふじみ野市誕生…………… 26

新市誕生までの経緯…………… 26

新市建設計画…………… 28

プロローグ ふじみ野市のすがた

ふじみ野市クロニクル 2005↓2025

第1節 ■ 位置と市勢…………… 10

2005 (平成17年度)…………… 30

ふじみ野市の位置…………… 10

2006 (平成18年度)…………… 31

自然と気候…………… 10

2007 (平成19年度)…………… 32

市勢の概況…………… 10

2008 (平成20年度)…………… 33

第2節 ■ ふじみ野市の歴史…………… 13

2009 (平成21年度)…………… 34

先史・古代の郷土のすがた…………… 13

2010 (平成22年度)…………… 35

中世・近世の郷土のあゆみ…………… 14

2011 (平成23年度)…………… 36

ふじみ野市の近現代…………… 16

2012 (平成24年度)…………… 37

造兵廠の建設と戦後のあゆみ…………… 17

2013 (平成25年度)…………… 38

序章 ふじみ野市誕生前夜

2014 (平成26年度)…………… 39

第1節 ■ 地方分権と平成の合併…………… 22

2015 (平成27年度)…………… 40

町村の誕生と自治のあゆみ…………… 22

2016 (平成28年度)…………… 41

平成の大合併をめぐる動き…………… 23

2017 (平成29年度)…………… 42

2018 (平成30年度)…………… 43

2019 (令和元年度)…………… 44

2020 (令和2年度)…………… 45

2021 (令和3年度)…………… 46

2022 (令和4年度)…………… 47

2023 (令和5年度) 48

2024 (令和6年度) 49

2025 (令和7年度) 50

第1章 かわる暮らし、つながる地域

第1節 ■新しい市のデザイン 52

ふじみ野市総合振興計画 52

行財政改革の変遷 53

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 (基本構想／前期基本計画) 55

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 (後期基本計画) 56

ふじみ野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 56

第2節 ■行政と議会のあゆみ 58

1 市民とともに歩む行政をめざして 58

合併が目指した健全で効率的な行財政運営 58

市民の参画と協働で進める自治の仕組み 58

効率的・効果的な行政サービスの向上 58

財政の状況 60

民間活力の導入 62

市民サービスの向上 64

各種団体の統合・一体化 65

2 開かれた議会に向けて 66

議会の役割と構成 66

議会改革への取り組み 67

3 ふじみ野市平和都市宣言 69

4 ふじみ野市誕生10周年記念事業 69

第3節 ■市民がいつでもまぜまじり 71

1 協働を目指す地方自治 71

ふじみ野市自治基本条例の制定 71

地域を創る協働のまちづくり 72

市民の自治活動と連携の深化 73

協働をつくり上げる産学との連携 74

2 市民の考え・意見を市政に 75

3 未来を見据えた新たな取り組み 76

第4節 ■新しい自治推進のすがた 79

市の魅力発信 79

新たな課題への対応 82

第5節 ■コロナへの対応と暮らしへの影響 84

全世界を襲ったパンデミック 84

Interview ① 88

ふじみ野市自治組織連合会会長 原田晴男さん 88

第2章 学びと誇りが育む市民文化

第1節 ■地域の誇りを伝える

祭りの魅力とにぎわい	90
文化の継承	93
資料館の改修と整備	94

第2節 ■交流が育む市民文化

市民の一体感の醸成を目指して	96
市民による文化芸術の創造・発信	98

interview ②

ふじみ野市文化協会理事長 小林 浩さん	102
---------------------	-----

第3節 ■生涯に学ぶよろこびを

生涯学習・文化振興の拠点	103
市民の学習活動を支える図書館	106
生きがい学習の啓発活動	108

第4節 ■スポーツを通じたまちづくり

普及振興と育成事業	109
施設の整備状況	110
成果発表の機会	112

interview ③

ふじみ野市スポーツ協会前会長 風間清武さん	115
-----------------------	-----

第3章 切れ目のない育ちへの支援

第1節 ■安心して産み育てられるまち

妊産婦・乳幼児への支援の充実	118
質の高い安全な保育の提供	120
切れ目のない子育て支援の拡充	122
放課後児童クラブの創設	124
発育・発達支援への取り組み	125
ともに考え寄り添う支援	126
子育て支援の情報発信	127

第2節 ■健やかな成長をみんなで見守る

子育て支援事業計画と条例の制定	128
協働による子育て支援	130
子どもの学習・生活支援、居場所づくり	131
子ども議会の開催	135

第3節 ■確かな成長を見つめて

教育行政の役割と教育委員会	136
学校教育支援の拡充	137
学校新設・統合	138
改修・耐震工事	140
情報化への対応	141
協働による学校支援	141

給食と食育……………144

interview 4

ふじみ野市子ども会育成団体連絡協議会会長 山城いづみさん……………146

第4章 このまちで、私らしく生きる

第1節 高齢社会を生きるまちづくり……………148

高齢者を支える仕組みづくり……………148

生きがいづくり……………150

健康維持支援……………152

地域支援体制の充実……………154

認知症への理解と交流の場づくり……………155

第2節 みんなで支え合いふれあう福祉のまち……………157

福祉ニーズに対応した支援……………157

支援ニーズへの包括的支援……………161

第3節 だれもが生きやすく暮らしやすいまち……………163

地域で支える障がい福祉……………163

意思疎通の環境整備と権利擁護の支援……………165

市民相談事業と消費生活相談事業……………166

人権の尊重と意識の高揚……………167

第4節 健康・医療と生きがいづくり……………170

元気・健康のまちづくり……………170

社会で支える傷病時や老後の安心……………171

市民とともに健康づくり……………173

各団体等との連携……………174

新型コロナウイルス感染症への対応……………175

interview 5

東入間医師会会長 井上達夫さん……………177

第5章 活力とにぎわいを生むまち

第1節 快適な暮らしの基盤をととのえる……………180

計画的なまちづくり……………180

安全で便利な公共交通……………185

快適な住居環境の整備……………188

公園・緑地の維持管理……………191

第2節 ひとに環境にやさしい都市へ……………194

快適な生活環境の保全……………194

環境教育の拠点づくり……………197

環境にやさしいまちづくり……………198

第3節 だれもが活躍できるまち……………200

商工業振興の推進……………200

地域経済の活性化……………202

雇用の場の創出……………204

第4節 ■ 誇れるふじみ野ブランドづくり……………205

担い手の育成と農地の確保……………205

地域農業の推進……………206

観光資源の活用と活性化……………207

Interview 6

ふじみ野市商工会会長 簗輪高一郎さん……………211

第6章 安全・安心をたしかなものに

第1節 ■ 災害から人とまちを守る……………214

災害の記録……………214

地域防災力の強化……………216

災害への備え……………219

防災対策の充実……………221

災害対策本部の機能強化……………223

第2節 ■ 安全こそすべての基本……………226

大井プール事故発生……………226

公共施設の安全点検と委託業務の適正な履行……………227

危機管理体制の強化……………228

第3節 ■ 力をあわせて犯罪や事故を防ぐ……………230

地域における防犯活動……………230

防犯意識の向上……………232

交通事故対策……………233

Interview 7

ふじみ野市消防団団長 島田智之さん……………235

資料・年表

■ 主要統計資料……………238

土地利用……………238

人口……………238

産業経済……………240

教育文化……………241

福祉保健……………245

医療衛生……………248

建設運輸……………249

警察消防……………250

行財政……………251

議会・選挙……………254

■ 合併関係資料……………255

上福岡市・大井町合併までの経緯……………255

上福岡市・大井町任意合併協議会開催概要……………256

上福岡市・大井町法定合併協議会開催概要……………257

新市名称候補選定検討委員会会議開催概要	258
■ 指定文化財一覧	259
■ ふじみ野市年表	261
参考文献一覧・監修者	269
あとがき	272

凡例

を掲載した。年表は、平成17年10月1日から令和7年10月1日までの主なできごとを、年度ごとに列記した。

1 『ふじみ野市史』の本編は、平成17（2005）年10月1日のふじみ野市の誕生から、おおむね令和6（2024）年度までの20年間の市の歩みを記述したものである。

3 記述にあたっては、固有名詞・歴史的用語のほかは、常用漢字と現代仮名づかいを用いた。読みにくい固有名詞や単語については適宜ふりがなを付した。数字は読みやすさを考慮して洋数字を使用した。億・万の単位語を併用した。単位は記号で表記した。

2 本書は、プロローグから第6章までの本編と、巻末の資料・年表からなる。

4 施設や団体、職位等の名称は原則として当時の呼称で記述した。ただし、一部の地名や名称は現在の所在地や名称を補った。

プロローグは、ふじみ野市の位置や自然環境、市勢の現況と、先史・古代にさかのぼる当地の歴史について紹介するものである。続く序章は、ふじみ野市が誕生することとなる社会・経済的な背景と、上福岡市と大井町による合併に至った経緯を概説したものである。

5 年数については和暦表記とし、（ ）内に西暦を補ったが、同一文中に再掲の場合や括弧中の和暦については西暦の並記を省略した。

第1章から第6章までは、ふじみ野市の20年間の歴史を、市政における分野ごとに章立てをし、施策ごとに節を設けて詳述した。内容によっては複数の章節にまたがって記述した事項もある。また、合併以前の施策や経緯にさかのぼって、あるいは令和7年現在の数値や現状について説明を加えたものもある。なお、各分野に関係のある役職や職務を務めた市民へのインタビュー記事を章または節の末尾に掲載した。

6 本編中の図表については、章ごとに一連の番号を付した。第1章から第6章までは、章数を親数字にした連番としている。掲載した写真は、提供・所蔵者の記述がある場合を除き、ふじみ野市が撮影・所蔵または許可を得て掲載している写真である。

さらに、20年間の主なできごとを写真とともに時系列で振り返る「ふじみ野市クロニクル」を序章の後に掲載した。

巻末の資料は、主要統計資料に基づき、平成17年からおおむね令和5年までの推移や現況を掲載した。また、1市1町による合併協議に関する「合併関係資料」および、令和6年度末現在の「指定文化財一覧」

7 本書の記述にあたって参照や典拠とした書籍や文献、各種行政資料や統計、広報紙などは、巻末の「参考文献一覧」に代表的なものを掲載した。発行者・編著者のないものは、ふじみ野市発行・編集によるものである。

プロローグ

ふじみ野市 のすがた

㊤ 世界に誇る 富士山を望める ここはふじみ野市——「ふじみ野市郷土カルタ」に詠まれた武蔵野原の彼方に富士が浮かぶ雄大な風景は、市名にも表された魅力の一つである。

本市は武蔵野台地と荒川低地にまたがり、江戸時代から昭和初期にかけて江戸（東京）とを結ぶ舟運で栄えた新河岸川が、北部市境に沿って南北に流れる。川越街道を往来するいにしえの旅人は、この富士の雄姿に心打たれ、故郷で待つ家族へ思いを寄せたことだろう。

平成17（2005）年10月に誕生した「ふじみ野市」は、東京都心から30km圏内に位置する。高度成長期を経て都市化が進展した中でも新河岸川の風景や雑木林など昔ながらの景観が残る一方、充実した生活基盤と都市環境から人口を集め、交通の利便性を活かした商品流通業や首都近郊農業などが盛んな都市として発展を続けている。

第1節 位置と市勢

ふじみ野市の位置

本市は埼玉県の南西部に位置し、東京都心から約30km圏内にある。市の北西は川越市、東は富士見市、南は三芳町と隣接している。西部に関越自動車道、ほぼ中央部を国道254号（通称「川越街道」）、東部には国道254号バイパスがそれぞれ市内を南北に走る。また、主要地方道の県道56号（さいたまふじみ野所沢線、通称「三ヶ島街道」）が北東から南西に向けて市の中心部を通っている。国道254号バイパスに並行して東武東上線が走り、市の玄関口となる上福岡駅がある。なお、ふじみ野駅は富士見市域に立地している。

自然と気候

本市の面積は14・64km²で、武蔵野台地と荒川低地からなる市域は、南西から北東方向に長く伸びている。地質は、台地部分は関東ローム層であり、川越市との市境に沿って新河岸川が流れ、周辺には水田が広がる。また、川沿いの傾斜林などの自然環境に恵まれるほか、西部には武蔵野の面影が残る畑や雑木林などの緑豊かな環境が保全されている。

図1 ふじみ野市の位置

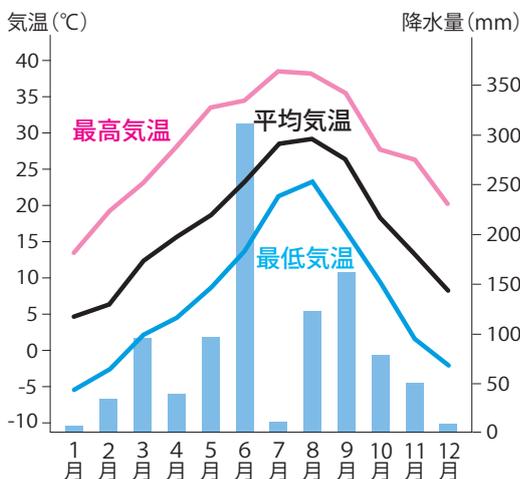


埼玉県の気候は太平洋側気候に属している。県南部に位置する本市では夏季の日中は高温になり、冬季は北西の季節風が強く空気が乾燥し、晴天の日が多い。

市勢の概況

人口 本市の合併時の人口は10万3090人（上福岡市5万4554人、大井町4万8536人）であった。以降、増加傾向が続き、令和7（2025）年4月現在は11万4506人と、合併時から11・1%伸びている。

図2 ふじみ野市の気象状況（令和5年）



位置	東経139度31分10秒 北緯35度52分45秒
面積	14.64km ²
広ぼう	東西7.5km、南北6.0km
人口	男 56,521人 女 57,985人 合計 114,506人 (令和7年4月1日)
世帯数	55,543世帯 (令和7年4月1日)
地勢	東に向かって緩やかな傾斜を下る（標高40m～5m）武蔵野台地上にあり、北東部の新河岸川に至る。関東ローム層からなるが、東端部の新河岸川右岸に氾濫平野が広がる。

平成22(2010)年度から同27(2015)年度の5・0%をピークに人口増加率は落ち着きをみせており、生産年齢人口(15〜64歳)の増加も鈍りつつあるが、充実した子育て政策の効果もあり、30代前半世代を中心に転入超過は続いている。人口構成は50歳前後の団塊ジュニア世代が多くなる一方、全国的な傾向と同じく高齢者人口の増加が続き、特に後期高齢者人口(75歳以上)の増加が著しい。

時代をさかのぼると、市域では昭和30年代から宅地化が進むとともに団地が整備され、東京のベッドタウンという性格が強まり、都市化が進んだ。旧上福岡地区では昭和34(1959)年には「霞ヶ丘団地」、翌年には「上野台団地」の入居がスタートし、いずれも1000戸を超える大規模団地で、当時、東洋一の大規模団地と呼ばれた。

旧大井地区での急激な人口増加は分譲住宅の建設が始まる昭和40(1965)年頃に始まり、同55(1980)年頃まで続いた。平成に入り、ふじみ野駅の開業や区画整理の完成により、人口は再び増加に転じた。その後もマンションや戸建住宅の建設が進んでおり、東京都心から1時間以内の利便性を有する「郊外住宅都市」として発展してきている。

就業人口は5万人前後で推移しており、人口に対する就業率は令和2(2020)年で59・

8%である。産業別就業者でみると、第一次産業0・9%、第二次産業21・2%、第三次産業が最も多く74・4%となっている。また、同年の就業状況をみると市内での従業は31・4%(男性23・8%、女性41・0%)、市外の従業は65・8%(男性73・4%、女性56・1%)となっている。東京都特別区への通勤依存率は近隣の朝霞・志木・和光・新座市などが30%を超えるのに対し25・8%とやや低く、市外の通勤先としては川越市(9・0%)、三芳町(5・0%)、富士見市(4・3%)の順に多くなっている。本市に住む外国人の数は、平成17(2005)年の753人から令和2(2020)年には2561人と、大幅に増加している。国籍別にみると中国、フィリピン、ベトナム籍の人口が大きく伸び、韓国・朝鮮籍人口はやや減少となっている。外国人人口の割合は2・3%で、県南西部地域では和光市、朝霞市に次いで高くなっている。

まちの起こりと産業の礎 市域一帯は、江戸

時代には幕府旗本や川越藩の領地となっていた。幕政の確立に寄与した松平信綱が川越藩主になると、武蔵野の開発が積極的に進められ、新河岸川の舟運も整備されるようになる。川越周辺と江戸を結ぶ水路が通じると産業の発展にも大きく貢献し、新河岸川沿いの福岡河岸はその拠点となった。川越街道には宿場も置かれ、

図3 ふじみ野市の人口・世帯数の推移 (各年10月1日現在)

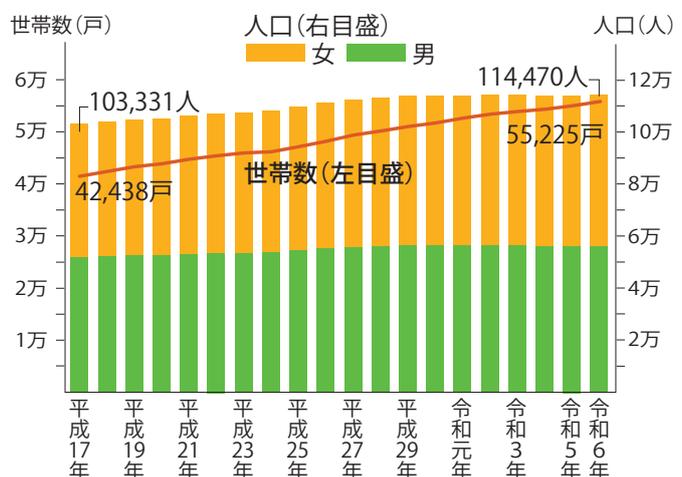
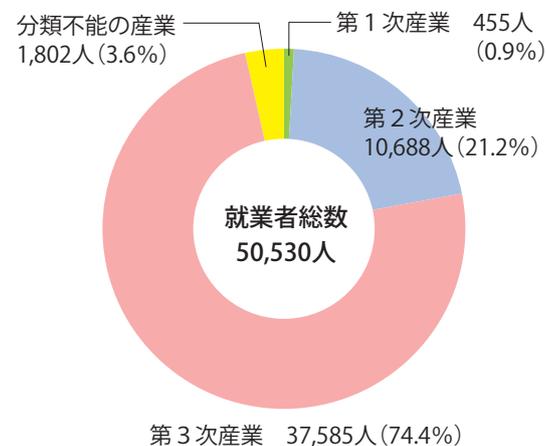


図4 ふじみ野市の産業別就業者数の割合 (令和2年)



資料：国勢調査

宿場町としても発展した歴史をもつ。

明治時代に入ると^{ほうまき}箒づくりが地場産業へと成長し、その後、さまざまな種類の箒が作られていた。生活様式が変化した昭和30年代を迎える頃から衰退していったが、現在も市民による継承活動が続いている。

農業 本市の農業は、中央部から西部、南部にかけての畑作地帯、東部の水田地帯からなり、古くから盛んであった。

現在は、大消費地への交通至便な立地条件を活かした都市近郊型農業で、東部地域の新河岸川沿いには水田が広がり、西部地域は近隣市とともに露地野菜産地を形成している。取れ高ではハウレンソウ、カブ、ダイコン、ニンジン、販売額ではネギ、ハウレンソウ、ブロッコリー、ニンジン、キャベツ、キュウリなどが主要品目となっている。特にハウレンソウの出荷量は埼玉県が全国トップクラスであるが、本市は県内自治体の中でも上位の出荷を誇っている。

市内には市民農園や農家による直売所も複数みられるなど、地産地消の取り組みにも積極的である。

なお、東部地域には国道254号バイパスが南北に走り、沿道の水耕栽培区域の一部が埼玉県から産業誘導地区に指定されている。これに対し、本市では豊かな自然環境、田園風景の保全のため、乱開発抑止対策の基本方針を策定し

ている。

産業と市勢の特徴 本市の産業を事業者数の構成比でみると、令和3(2021)年では卸・小売業21・7%、宿泊業・飲食サービス業11・9%、建設業11・0%と続く。また、従業者数の構成比でみると、卸・小売業20・4%、製造業17・4%、医療・福祉17・3%などが続き、飲食業などを含めたサービス産業が多数を占め、都市型産業を構成している。

令和4(2022)年の製造品出荷額は1365億2646万円、業種は「電子部品・デバイス・電子回路製造業」が従業員数で32・1%、「印刷・同関連業」が付加価値額で36・9%を占めた。

東武東上線北福岡駅周辺が本市の商業地の中心であり、駅前には大型商業施設や商店街も複数展開する。また、西部に国道254号、東部に富士見川越バイパスが並行して走り、交通・物流で重要な役割を果たしている。

平成5(1993)年11月に東武東上線ふじみ野駅近くに日本初のアウトレットモール「アウトレットモール・リズム」が開業した。その後全国に展開するアウトレットモールの先駆けとなったが、平成23(2011)年閉店し、翌年ショッピングセンターソカふじみ野、令和3(2021)年にトナリエふじみ野となった。

表1 農業の推移

年	農家数	経営耕地面積 (ha)	農業就業人口 (人)
平成17 (2005)	452	248	608
平成22 (2010)	409	214	486
平成27 (2015)	348	175	378
令和 2 (2020)	290	154	...

各年2月1日現在
資料：農林業センサス

※平成17年は上福岡市と大井町の合計
※経営耕地面積は販売農家分のみ

表2 商業の推移

年	事業所数	従業者数 (人)	商品販売額(百万円)	売場面積 (㎡)
平成19 (2007)	750	6,578	119,097	152,368
平成26 (2014)	505	4,555	98,734	131,095
平成28 (2016)	557	5,289	120,554	127,554
令和 3 (2021)	494	5,303	103,760	128,724

各年6月1日現在 (平成26年は7月1日現在)

資料：商業統計調査 (平成19・26年)、経済センサス (平成28年・令和3年)

※平成19・26年は商店数

表3 工業の推移

年	事業所数	従業者数 (人)	製造品出荷額等 (万円)
平成17 (2005)	146	5,758	14,474,208
平成21 (2009)	126	5,304	10,497,113
平成26 (2014)	99	4,363	10,039,163
令和 2 (2020)	107	4,536	11,568,445
令和 4 (2022)	116	4,498	13,652,646

各前年12月31日現在

資料：工業統計調査、経済構造実態調査

※4人以上の事業所の集計結果

※令和2・4年の事業所数、従業者数は6月1日現在

第2節 ふじみ野市の歴史

■ 先史・古代の郷土のすがた

旧石器時代の人々の息吹 本市で人々が生活した最古の痕跡は、約2万7000年前の後期旧石器時代にさかのぼる（川崎・東台・本村遺跡など）。

当時の市域一帯は溪谷となっていた荒川を東に臨む台地になっており、その上を川越江川・福岡江川・さかい川・砂川などの小江川が流れていた。これらの河川に近い場所で生活が営まれていたことが、流域の鶴ヶ岡外・川崎・滝・鷺森・亀居・本村・西ノ原・東台遺跡などからうかがえる。

縄文時代の遺跡群 1万5000年前の縄文時代になると、気候は暖かくなり、食糧になる動植物に恵まれた。東台遺跡からは9000年前の市内最古の縄文土器が出土している。

6000年前の縄文前期には、さらに温暖化が進んで海水面が上昇し、東京湾が現在の荒川・新河岸川流域の低地まで入り込んでいた（縄文海進）。この海辺にあった本市北部・東部の上福岡貝塚や川崎遺跡では貝塚が形成され、特に上福岡貝塚では重要文化財の片口深鉢型土器が見つかっている。

5000～4000年前の

縄文時代中期には、福岡江川・さかい川などの小江川に沿って大規模な集落が営まれるようになった（西・ハケ・亀居・西ノ原・東台・神明後遺跡など）。また、注口土器・石棒など祭祀に使用されたと思われるものも現れた。

弥生時代の環濠集落 紀元前300年頃、日本列島では、九州北部で水田による米づくりが開始され、その後全国に

伝わり、水稲耕作による食糧生産に基礎をおく弥生時代が始まった。

市の東部、荒川低地の伊佐島遺跡では、集落を囲む幅2・4m深さ1・5mの堀（環濠）と竪穴住居が確認され、直径80m以上と推定される規模の弥生時代終末期の環濠集落が営まれた。

権現山古墳群が造られた時代 3世紀後半の古墳時代に入ると、市東部の滝地区で人々が生活を始めた。新河岸川と荒川低地が一望のもとに見渡せる見晴らしのよい台地の上に、1700年前の古墳時代初期のものとされる権現山古



東台遺跡（旧石器時代ブロックおよび礫群検出状況）



権現山古墳群

墳群（県指定史跡）が造られた。昭和61（1986）年の調査で、古墳の周りを巡る溝の中から墳丘の上に置かれた壺（底部穿孔土器）や高坏が発見され、当時を知る貴重な手がかりになっている。

5世紀になると、権現山古墳群の北側に円墳1基・方墳3基からなる権現山北古墳群が造られるようになる。円墳の周りを巡る溝の中からは、須恵器甕（市指定文化財）や円筒埴輪片などが出土した。



ハケ遺跡から出土した埴輪

で4基の古墳が発見され、人物埴輪（市指定文化財）や円筒埴輪などがまとまって出土した。

また、7世紀後半、川崎舌状台地の西側斜面に川崎横穴墓群、福岡江川左岸の富士見台から駒林へ下る斜面に富士見台横穴墓群が造営されている。

奈良・平安時代の営みを伝える遺跡

8世紀の奈良時代には、「奈良の大仏」に象徴されるような大規模な国家的建築・造営事業が推し進められた。全国に国分寺や国分尼寺が建てられ、各地で瓦や須恵器を焼く窯などの工房が設けられた。

本市の南部でも、国家的事業の一環として鉄

5世紀後半

から6世紀頃

には、行田市

の埼玉古墳群

で巨大な前方

後円墳が造ら

れるなか、埼

玉県内各地で

は中小規模の

古墳が多くみ

られるように

なる。本市で

も新河岸川を

臨むハケ遺跡

の生産が行われていたことが東台遺跡の発掘調

査で判明した。遺跡からは、砂鉄から鉄の塊を

作るための製鉄炉が7基、燃料となる木炭を焼

く窯が10基、そのほか炉の原料となる粘土を採

るために掘った穴や鋳物の型となる鋳型などが

見つかった。また、7世紀後半から9世紀

後半にかけては川崎遺跡や滝遺跡、長宮遺跡、

松山遺跡で集落が営まれた。川崎遺跡では、仏

教を信仰する有力層がいたことを示す瓦塔、布

目瓦、緑釉陶器が出土している。

川崎遺跡は市内最大の平安時代の集落跡で、

カマドのついた竪穴式住居のほか、郷衙（郷役

所）の跡と思われる掘立柱建物跡や井戸、さら

に鍛冶工房が見つかっている。

中世・近世の郷土のあゆみ

■ 武士団が割拠する鎌倉・室町時代

平安時代の後半から室町時代の関東は、桓武天皇から出

た一族といわれる秩父氏（秩父党）や千葉氏に

代表される坂東八平氏、都の貴族を祖とする比

企氏や足立氏、あるいは武蔵七党と呼ばれる武

士たちによって支配されていた。彼らは未開墾

地を開発して開発地名を名乗り、本市およびそ

の周辺では、秩父党の河越氏、村山党の仙波

氏・大井氏・難波田氏の名がみられる。彼らは

源頼朝の鎌倉幕府創立に貢献し、幕府滅亡後の

南北朝・室町時代の

争乱にあっても活躍

した。

市内にはこれらの

武士が居住地と鎌倉

との往来に利用した

鎌倉街道と伝えられ

る古道があり、その

近辺から、死後の極

楽往生を願う当時の

信仰の一端をうかが

わせる板碑が出土し

ている。大井弁天の

森の西端、東台から



川崎遺跡（古墳時代後期の住居跡）



復元大井戸跡



市指定文化財板石塔婆（徳性寺）

砂川堀へ下る「古坂」と呼ばれる道も鎌倉街道と伝えられる。

東原小学校の一带は、昔から「本村」と呼ばれていたが、土地区画整理に伴う発掘調査により、鎌倉時代から戦国時代にかけての村落跡であることが判明した。この村落は、戦国時代の「大井郷」に該当し、江戸時代初期、川越街道の整備に伴いこの村が川越街道沿いに移転して大井宿になったことで、この付近が「もとのむら」として本村と呼ばれるようになったと考えられる。

戦国時代の支配構造 戦国時代中頃の本市には、大井郷・福岡郷・川崎郷と呼ばれる村々があり、相模国（現在の神奈川県）小田原城を本拠地に、関東一円に勢力を伸ばした北条氏が支配していた。大井郷は、北条氏一族の北条幻庵

が、福岡郷・川崎郷は、富永善左衛門をはじめとする5人の北条氏家臣が領主として治めていた。福岡村東部（下福岡地域）の城山は、福岡郷に本拠地を置く富永氏が築いた城館の跡と伝えられている。

当時の大井郷では、北条幻庵から名主に任命された新井帯刀・新井九郎左衛門尉・塩野庄左衛門尉・小林源左衛門尉の4人の有力農民（通称「大井四人衆」）により農地の開発が進められた。福岡郷では、北条氏から小代官に任命された吉野氏が年貢や軍用の食糧を領主に納めていた。

江戸時代の村々 天正18（1590）年に北条氏が滅亡し、かわって関東の支配者になった徳川家康が、慶長8（1603）年に幕府を開いて江戸時代は始まった。江戸時代初期の市域には、大井郷（後の大井町・大井宿）、亀久保村、苗間村、福岡村、駒林村、川崎村の6か村があり、これらの村々では幕府旗本の領地と川越藩の領地が混在していた。

寛永16（1639）年に松平信綱が川越藩主となつてからは、武蔵野の開発が積極的に進められ、市域では慶安年間（1648～52）に福岡新田が、延宝期（1673～80）頃に鶴ヶ岡村が成立したと伝わる。新しい農地の開拓と農民の移住により本市域の村や人口は増加していった。



宝篋印塔（文化6年・西養寺）

元禄年間（1688～1704）には旗本領だった村も全て川越藩領となったが、後に福岡村の一部の地域が幕府領になった。正徳2（1712）年に、この地域が再び川越藩領に編入され、明和4（1767）年に中福岡村と改名し、現在の市域は9か村から成り立っていた。村々には、責任者である名主のほかに、組頭・百姓代などの村役人が置かれた。

河岸と宿場で栄えた江戸時代 荒川支流の新河岸川を利用した舟運は、江戸初期の寛永15（1638）年に江戸から川越東照宮の再建資材を運搬したことに始まる。

正保4（1647）年、幕府老中を務めた松平信綱が川越藩主として新河岸川の河道整備を図り、市域を含む川越周辺と江戸を結ぶ水路として重要な役割を果たした。川の沿岸には、明治時代の初期まで20か所以上の河岸場（船着場）

が設けられ、本市には、江戸時代中期設立の福岡河岸と明治時代初期設立の百目木河岸があった。福岡河岸西方の大井・所沢・飯能などで生産・出荷される農産物や薪・炭などの燃料が、これらの河岸場に運ばれて川船に積み込まれ、下り荷物として江戸（東京）に送られた。江戸からの上り荷物は糠や藁灰、干鰯といった肥料が多かった。

福岡河岸は、享保18（1733）年頃に設けられ、安永2（1773）年には幕府から正式に公認された。当初の船問屋は吉野屋、江戸屋、富田門左衛門の3軒があったが、後に富田家は船問屋をやめた。江戸時代後期の天保2（1831）年に福田屋が船問屋を開業した。

新河岸川の荷船は、全長15m前後で200〜250俵を積むことができた。これらの船頭の多くは、新河岸川沿岸に位置して別名「船頭のムラ」とも呼ばれた福岡村東部（下福岡地域）に住んでいた。

一方、陸上ルートの運輸と通行について江戸幕府は、公用の旅行者や荷物の運搬のために東海道・中山道をはじめとする五街道を整備した。街道には宿場が設けられ、宿場から次の宿場へと人馬を代えて荷物をリレー方式で送り届ける宿継ぎを行う伝馬制度が設けられた。宿場には公用旅行者のための本陣や一般旅行者の宿泊施設である旅籠が置かれた。

川越街道（現在の国道254号）は、中山道の脇往還として17世紀中頃に整備された。江戸を出て板橋宿で中山道と分かれ上板橋、下練馬、白子（現在の和光市）、膝折（現在の朝霞市）、大和田（現在の新座市）、大井（現在の本市）の6宿を経て川越に至る約11里（約45km）の道のりであった。大井宿の本陣



角の常夜燈



旧大井村役場

は、戦国時代に大井郷の開発に尽力した有力農民大井四人衆の系譜をひく新井家が務めていた。

ふじみ野市の近現代

明治の市町村制度 明治元（1868）年の明治維新を迎えて戸籍法が制定されると、同5（1872）年に江戸時代から続く村役人の名主・組頭は廃止され、地域の9か村には、村ごとに戸籍・税務などを管理する戸長が置かれた。

廃藩置県から始まる地方制度改変を経て、明治22（1889）年に町村制が施行されると、江戸時代から続いた村々も、新しい自治制度に基づく新たな村に生まれ変わった。市域では、

川崎村・福岡村・中福岡村・福岡新田・駒林村が合併して福岡村が、鶴ヶ岡村・亀久保村・大井町・苗間村が合併して大井村が誕生した。

当時の村役場は、当初は専用に建築された庁舎ではなく、借用した民家などに置かれていた。福岡村では大正7（1918）年に旧三福学校舎を移転・再利用して庁舎が設置された。大井村では、明治時代に学校敷地内に校舎建築資材を利用して役場が建てられた。その建物の老朽化により、和洋折衷建築の役場庁舎が昭和12（1937）年に建てられた。

戦後になると、日本国憲法とともに地方自治法が施行され、現在に続く地方自治の新しい枠

組みが整備された。福岡・大井の両村は、後に町制・市制を施行し、両村は、後に上福岡市・大井町になったが、その後は他の市町村との合併はなく、平成17（2005）年に本市が誕生するまで変わらなかった。

現在の市境は、周辺の市と入り組んでいる。江戸時代、この一帯は川越藩領として多くの村が分立し、武蔵野開発による各村の飛地が複雑に点在しており、市町村制を経ても村々の形がそのまま残された。本市に大きく食い込んでいる富士見市勝瀬地区は、明治・昭和の大合併を経て、同市に組み込まれた。

近代教育制度 近代化を急ぐ明治政府は、教育の振興に力を注ぎ、明治5（1872）年に近代的学校制度の基本法令として学制を發布した。

まず、明治6（1873）年に蓮光寺（川越市渋井）に渋井学校を置き、上福岡地域の一部の子どもたちが通ったが、新たに同11（1878）年に福岡村・中福岡村・福岡新田の三村が三福学校を開校し、同7（1874）年には、苗間・大井・亀久保の各学校が設けられた。

その後、明治12（1879）年の教育令により大井町苗間村亀久保村連合公立旭学校（同22年に尋常小学校旭学校、現在の大井小学校）が設立された。明治22（1889）年、福岡・中福岡・福岡新田・川崎・駒林の5村の合併に

より成立した福岡村には尋常小学校福岡学校（現在の福岡小学校）が設立された。

これらの学校卒業者の進学先として、明治19（1886）年に大井高等小学校が、大正6（1917）年に福岡尋常高等小学校が設置され、地域の人材の育成に貢献していくことになる。

舟運の盛衰と鉄道の開通 江戸時代末から明治時代中頃にかけて、新河岸川舟運は最盛期を迎えるが、明治時代の終わり頃に福田屋と江戸屋は船問屋を廃業する。吉野屋も、大正時代の東上線の開通や河川改修工事などの影響で新河岸川での船の運航が困難になったことにより廃業した。こうして昭和10（1935）年頃には川を往来する船は減少した。

一方、福田屋十代目当主の星野仙蔵は、船問屋を経営しながら新たな交通手段としての鉄道の役割に注目した。明治時



福岡河岸記念館（福田屋）



第一陸軍造兵廠第二工場付近

代後期に衆議院議員を務めたのち、東京と川越を結ぶ鉄道の誘致に尽力した。大正3（1914）年に東上鉄道（現在の東武東上線）が開通、上福岡駅が開設されると、次第にまちのにぎわいも駅周辺へと移っていった。

■ 造兵廠の建設と戦後のあゆみ

太平洋戦争と陸軍の造兵廠 昭和12（1937）年から同20（1945）年の太平洋戦争の終戦まで、現在の福岡1・2丁目から上野台団地一帯には弾薬工場の陸軍造兵廠川越製造所（通称「火工廠」）があった。用地買収は、昭和4（1929）年から翌年にかけて福岡村の農

民の土地を陸軍が接収するかたちで行われ、最終的には最大で約600棟の建物を擁する約16万5000坪（約54万5000㎡）の規模になった。危険物を取り扱う建物の周囲には、爆発



保管庫の防壁

しても周囲に影響を与えないように厚いコンクリートの壁や高い土塁が築かれていた。

造兵廠では、約7000人の従業者が機関銃弾や小銃弾、陶製手榴弾、風船爆弾の電気

の役割を終え、旧火工廠はその管理統制下におかれた。敷地の一部や徴用工舎は一時、海外からの引揚者の寮や戦争によって夫を失った女性たち（戦争未亡人）の援助施設（婦人の街）に充てられた。

一方、福岡小学校には海外や沖縄からの引揚者の児童が転入して教室不足が深刻になり、旧火工廠の一部を転用して分教場とすることを申請したが実現せず、天神教会を借用していた。

また、小学校校舎に間借りしての出発となった福岡中学校の新校舎獲得は村民の宿願となり、村長や校長、議会から東京財務局、GHQ、県軍政部などへの活発な働きかけが行われた。こうして昭和22（1947）年には、旧火工廠の建物借用が認可され、10月に中学校新校舎の分離独立式が挙行された。

雷管・信管の部品などを製造していた。昭和19（1944）年8月からは、川越中学校（現在の川越高校）などの旧制中学校や福岡国民学校・大井国民学校高等科の生徒約1500人が、学徒動員として危険な作業に従事し、川越高等女学校（現在の川越女子高校）出身者などで構成された女子勤労挺身隊も動員された。また、造兵廠の付属施設として、大井村亀久保地区に約7・8万坪弱（約25万7000㎡）の「大井倉庫」が設けられ、事務棟1棟のほかに21棟の火薬庫・部品庫があった。

旧火工廠の跡地利用をめぐる 終戦を迎え占領軍（GHQ）が進駐すると、火工廠として

進駐軍の接収が解かれると、旧火工廠跡地の活用運動は昭和26（1951）年から始まり、その広大な敷地の用途は地域の発展にとって重大な課題であった。その運動は「平和産業に活用することを関係当局に請願し、実現を期する」というスローガンのもとで、福岡村長を委員長とする「旧火工廠活用実行委員会」により進められた。昭和31（1956）年には「旧陸軍造兵廠川越製造所活用促進委員会」が設立され、民間企業や学校の誘致が認められた。

こうして昭和34（1959）年には大日本印

刷、日本無線が跡地に進出することになった。軍事目的の火薬兵器工場から、国民の生活に直結する電気通信機器工場への転換は、高度成長に向かう日本の産業の転換を象徴しているといえる。

また、この頃までは純農村地帯であった大井村も、復興から経済成長へと向かって積極的な開発が進められた。昭和33（1958）年には東武鉄道による鶴ヶ岡と亀久保の土地買収が始まり、行政も積極的に開発を推進しようと企業を誘致した。「大井村工場誘致条例」（昭和34年8月）では、年間固定資産税相当額の範囲内で村の奨励金を進出企業に交付する優遇措置が設けられた。

昭和33（1958）～36（1961）年にかけて、福岡村には日本住宅公団による「霞ヶ丘」と「上野台」の2つの大型団地が造成された。団地という新しい居住スタイルも、街なみの景観や近代的な生活の中に溶け込んでいった。

公共センター構想の実現 企業・住宅に続く旧火工廠跡地の活用策として促進委員会内で検討されたのは、約2万坪の公共用地を住民の生活を支える村の「公共センター」とする計画的活用であった。

ところが、昭和40（1965）年、跡地を国家公務員宿舎として利用するという政府案が浮上した。福岡町（昭和35年町制）では反対の声



日本無線構内の旧火工廠現況

が上がり、県立高校の誘致とともに地域のための跡地利用を訴える運動が始まった。背景には都市化に伴う人口増加の中で、さまざまな市民のニーズが生まれていたことがある。

同年には、反対運動を呼びかけた諸団体を中心に国有地対策協議会（国対協）が結成され、町長や議会への陳情、街頭でのアピール活動や署名活動などを精力的に展開した。

昭和41（1966）年、跡地のうち学校・公園用地を福岡町に払い下げし、残りを大蔵省の

公務員住宅として使用する方針が決定された。

こうして「公共センター」構想は実現へと向かい、翌年には福岡中央公園が、さらに昭和47（1972）年には福岡町庁舎（現ふじみ野市庁舎）が建設され、その後も市立図書館（昭和53年）、フクトピア（平成12年）などの建設が続いた。

転用の歴史から学ぶこと

終戦後、旧火工廠跡地はさまざまなかたちで転用された。今では市役所や学校、公園など、市民にとってなじみ深いエリアとなっている。しかし、その過程には「地域のための転用」を求める住民の強い願いと運動があった。現在でも、火工廠の記録を残し、そこに新たな「まちづくり」を構想するヒントを探ろうとする活動が続けられている。

高度経済成長と市制・町制、そして合併へ

戦後復興を経て経済成長が加速する昭和30年代に入ると、市域では東京のベッドタウン化が進み、日本住宅公団（現在の独立行政法人都市再生機構）が、上福岡駅西側の農地に霞ヶ丘団地（昭和34年入居開始、1793戸）を、駅東側の旧火工廠跡地の一部に上野台団地（昭和35年入居開始、2080戸）を建設し、県内初の1000戸を超える大型団地として注目を集めた。

これらの団地に入居する若い家族には東京への通勤者も多く、市域一帯での住宅建設も進んだことから、上福岡駅の利用客も急増した。東武鉄道は混雑解消を図るため、昭和34（195

9）年に上福岡駅を改築したが、同社では初の橋上式駅舎となった。

こうした都市化の進展と人口の増加により、福岡村は昭和35（1960）年に福岡町に、12年後の同47（1972）年には上福岡市になった。大井村も工場誘致が進み、昭和41（1966）年に町制施行して大井町になった。

その後も国道バイパスや関越自動車道をはじめとする交通網、公園緑地や上下水道など都市環境の整備、新たな小中学校の建設が図られていく。さらに鶴ヶ岡・亀久保・大井苗間・東久保・駒林での大規模な区画整理や日本初のアウトレットモールの開業など商業施設のオープンも相次ぎ、平成5（1993）年11月の東上線ふじみ野駅（富士見市）開業前後から、大規模なマンションや住宅建築が進んだ。

こうして上福岡市と大井町が平成17（2005）年10月1日、合併して「ふじみ野市」が誕生した。（序章参照）

序 章

ふじみ野市 誕生前夜

わが国においては、これまで3回にわたる市町村の大合併が行われた。明治、昭和、平成の大合併である。明治の大合併は、近代的地方自治行政を実現するための基盤を整備することを目的として、昭和の大合併は、戦後の地方自治、特に市町村の役割を強化する必要から進められた。

その後を迎えた高度経済成長を経て国民生活も大きく変容し、豊かで成熟した社会となったが、近年は人口減少と少子高齢化が進展し、市町村を取り巻く環境は厳しさを増している。こうした中で行われた「平成の大合併」により、全国の市町村数は3232（平成11年3月末）から1727（平成22年3月末）まで減少した。

市域においては、明治22（1889）

年に5村が合併し福岡村が、4村が合併し大井村が誕生した。その後、昭和の大合併の時期を経てそれぞれ福岡町（昭和35年）、大井町（昭和41年）となり、5万人の人口を擁していた福岡町は昭和47（1972）年に上福岡市となった。

平成の大合併では当初、上福岡市・富士見市・大井町・三芳町の2市2町による合併協議が進められたが議論がまとまらず、新たに上福岡市と大井町の枠組みで任意協議会を発足させて、平成16（2004）年11月から合併協議がスタートした。

平成17（2005）年1月には、新市の名称を「ふじみ野市」に決定するなど各種の協議が整い合併協定書が調印された。そして、平成17年10月1日、新市「ふじみ野市」が誕生した。

第1節 地方分権と平成の合併

■ 町村の誕生と自治のあゆみ

過去の合併 時代はさかのぼる。明治政府によって明治22（1889）年に施行された「町村制」は、地域行政の末端に自治区としての「町村」を設定し、法人格を与える（行政村）というものであった。ねらいは近代国家としての基礎を強化し、県や国の行政事務を遂行することにあった。

これによって、現在の市域には、福岡村・中福岡村・福岡新田・川崎村・駒林村が合併した「福岡村」と、亀久保村・鶴ヶ岡村・大井町・苗間村が合併した「大井村」が誕生した。

時代は下って、第2次世界大戦を経た昭和30（1955）年前後、多くの自治体は慢性的な財政危機に陥っていた。この解決策として、国は昭和28（1953）年に「町村合併促進法」（3か年の時限立法）を公布、埼玉県は翌年に県内の合併試案を発表した。この当初の試案では、福岡村は川越市を中心とする合併を勧告されていた。その後、大井・福岡両村は三芳・南畑・柳瀬・鶴瀬の周辺自治体も含めて合併協議を進め、柳瀬村の離脱を経ながらも、全体として表面的には大同団結を望む意向が示されていた。

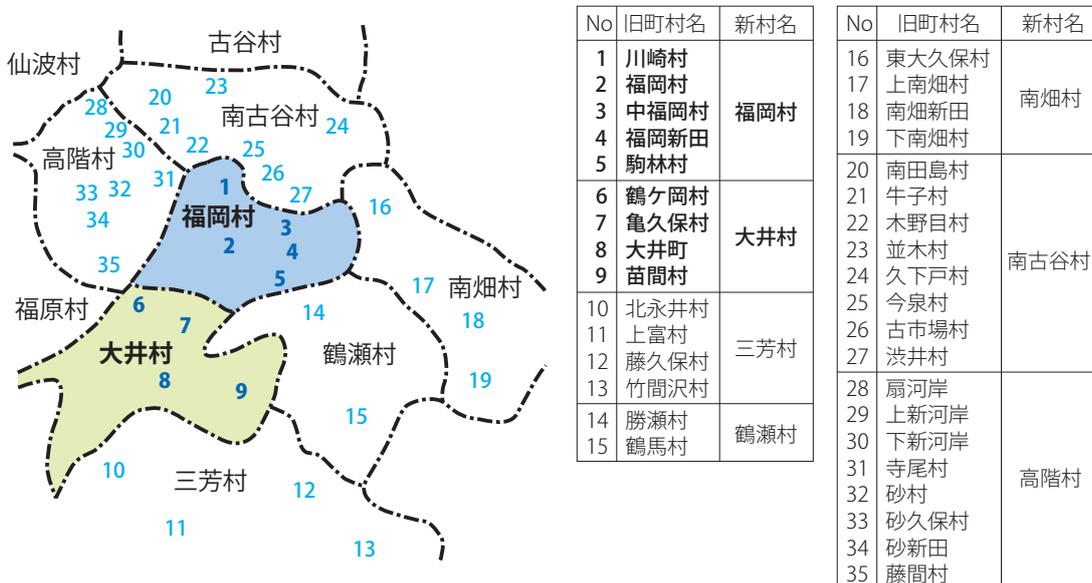
た。

しかし、大井村を除いた他3か村は、福岡村を含む合併は不利な立場になると捉え、福岡村との合併に反対の意思を示すようになった。理由として、福岡村は人口も多く、就業構造をみても、農業従事者が多い他の3か村と比較すると、給与所得者や商工業従事者が多いという特徴をもっていたことが挙げられる。大井村は他村に比べ農業就業人口の比率が低く、かつ地域的にも密接な交流があったこと等から、福岡村を含む合併賛成の態度を示していたが、このような周辺自治体の動向を受け、大井村内でも次第に合併をめぐる議論が紛糾し、深刻な対立が生じた。その後、福岡・大井両村は周辺自治体のどこと合併するかを試行錯誤を経るうちに昭和31（1956）年9月末に期限切れとなった。

このような動きの中、福岡村では合併実現の見通しがなくなると、村単独で町制に移行する機運が高まった。霞ヶ丘、上野台といった団地の造成で人口が激増したことが一因であった。昭和35（1960）年11月3日、埼玉県下で40番目の町として「福岡町」が誕生した。

大井村でも、合併案をめぐる動きが幕を閉じると相前後して、東武鉄道による土地取得と

図1 福岡村・大井村と隣接する村々の合併状況（明治22年）



工場誘致がなされ、さらには宅地開発が急速に進展したことで人口増加が加速した。昭和40（1965）年には町としての要件である人口5000人を大きく上回る8876人を記録し、翌41（1966）年11月3日に町制を施行し「大井町」となった。

次いで昭和44（1969）年の地方自治法改正によって、各自治体には「総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想」を定めることが義務付けられた。福岡町では、基本構想策定と並行して市制施行の準備も進められ、人口も市となる要件の5万人をすでに突破していたため、市制施行に踏み切った。住民参加による行政の推進を図り、諸施設の増強、福祉行政の充実による近代都市建設に努力すると「福岡町を市とする処分申請書」には書かれている。こうして昭和47（1972）年4月10日、県下36番目の市として「上福岡市」が誕生した。新市名は福岡県福岡市の先例があったため、住民からの公募で決定した。大正3（1914）年開業の「上福岡駅」（開業当時は東上鉄道）の駅名が大きな影響を与えたと考えられる。

■ 平成の大合併をめぐる動き

日本においては先にみたように、時代の大きな転換点に2度の大きな市町村再編を行ってきた。そして、平成12（2000）年4月に施行

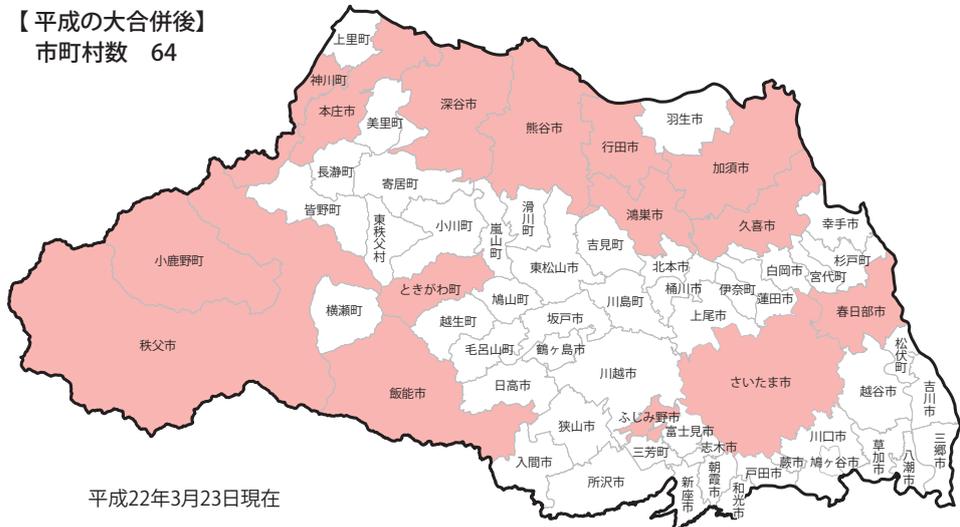
図2 埼玉県の「平成の大合併」の状況

【平成の大合併前】
市町村数 92



平成13年4月30日現在

【平成の大合併後】
市町村数 64



平成22年3月23日現在

された地方分権の推進を図るための関係法律の整備等に関する法律（地方分権一括法。国から地方へ権限や財源の移譲を進める法律の総称）が、「平成の大合併」と呼ばれる3度目の再編を促すことになった。明治・昭和の合併は国主

導の上からの合併であったのに対し、平成の合併は、住民の理解と協力が無い限りその遂行は難しいとされた。しかし、地方分権を押し進める国・県のイニシアチブのもと、当初3232あった市町村数は1727となった。

この根拠となったのが市町村の合併の特例に関する法律（合併特例法）の改正である。この法律は、市町村行政の広域化の要請に対処するため、合併特例債など財源措置を創設し、自主的な市町村の合併推進に資することを目的としていた。

同法に基づき、関係市町村の議会での議決による法定合併協議会の設置が規定された。平成17（2005）年3月末までの時限立法であり、合併が住民合意のもと自主的な判断に基づき進められることが前提であった。

平成の大合併の必要性 明治維新からわずか100年余りで、大きく発展した上福岡・大井両地域の変貌は、都市化と人口増を背景に農業中心の社会から、都市型社会へと移行したことによる。東武東上線の開通や高度経済成長のもたらした都市化の進展は、新たな問題を発生させることになった。

上福岡市は市に移行しても町時代の財政難を引き継いでいた。それに加え、人口増に応じたインフラ整備が多大な行政需要を生み出していた。さらに昭和48（1973）年のオイルショック、同53（1978）年の第2次オイルショックが追い打ちをかけ、市政は本格的な行財政改革を迫られることになった。

大井町でも同様に、急激な人口増による宅地開発や教育施設などのインフラ整備、高齢化に

伴う行政サービスの充実が求められるようになっていた。

そのため、自治体広域化による行財政基盤の強化を図るために、上福岡・大井両地域においても、合併を模索する動きが強まった。

2市2町合併協議会

本地域ではすでに平成7（1995）年頃から、東入間青年会議所や地域住民による合併への動きが本格的に展開されていた。2市2町（上福岡市・富士見市・大井町・三芳町）それぞれの住民の代表者は、2市2町は広域行政が行われる一つの社会圏域であり、これまでの懸案事項であった合併について公の協議会の中で議論することを求め、平成11（1999）年8月に協議会設置を求める署名を集め、各首長に協議会設立の請求を提出した。これは合併特例法に基づく「住民発議」であった。各首長は協議会設置について賛成し、各市町の12月議会で合併協議会設置に関する議案をそれぞれ可決した。法定の合併協議会が設置されたのは県内で初めての事例であった。翌12（2000）年4月、2市2町の合併協議会がスタート（4月1日付で協議会設立）した。5月17日の第1回合併協議会を皮切りに、10月には静岡市・清水市合併協議会視察、住民意識調査を実施、また、ホームページの開設や広報紙の発行、公開セミナー開催など、地域住民の意識喚起が図られた。

平成14（2002）年3月の第10回合併協議会では「合併の是非」について、是とする方向性が示された。

引き続いて地域説明会が開催されたが、翌15（2003）年10月26日の2市2町の住民投票は、富士見市は賛成、三芳町は反対、上福岡市と大井町は投票率不足で不成立という結果になった。過去の住民説明会などで実施したアンケートでは、合併に賛成する理由として「規模拡大による行政効率の向上、行政改革の推進」、「市町の首長や議員、職員の削減」が、反対する理由としては「市町の区域が広くなり行き届いたサービスが受けられなくなる」、「合併後の役所（役場）中心地域と周辺地域で格差が生じる」などの意見が挙げられていた。

協議会では、2市2町のうち1つでも反対が上回った場合には合併協議を打ち切ることを申し合わせていたことから、同協議会は12月25日をもって解散となった。

1市1町による任意合併協議会

平成16（2004）年2月、上福岡市長から大井町長に口頭で合併の申し入れがあった。合併して効率的な行政運営を行い、財政基盤を強化するという強い思いからであった。これを受け大井町では議会に諮り、全員協議会で説明し、町長判断で受け入れた。同年6月、「上福岡市・大井町任意合併協議会」が設立された。同協議会のメン

バーは両首長のほか、助役、議員、学識経験者からなる計24人。6回の会議を経て、法定協議会を設置し合併に向けた話し合いに入ることとした。

両市町は、隣接する自治体として通勤・通学や買い物などの日常的な生活圏・経済圏が行政区域を越えて一体化していることから、効率的・効果的なまちづくりを行うために合併が必要不可欠であった。すなわち、少子高齢化や高度化・多様化する住民ニーズ、地方分権への対応、さらに厳しい財政状況への対応に迫られていたことによる。（資料「合併関係資料」参照）

法定合併協議会 任意協議会で法定合併協議会への移行が確認されると、平成16（2004）年11月に「上福岡市・大井町法定合併協議会」が設置された。メンバーは両首長のほか、助役、議員、学識経験者からなる計26人。他に両市町には企画担当課長による幹事会と事務局が置かれた。6回開催された協議会において、合併の期日（平成17年10月1日）、新市役所（旧上福岡市役所）、新市名（ふじみ野市）を内容とする合併協定書が作成された。そして、平成17（2005）年1月26日、協定事項の確認の意味で両首長による調印が行われ、2月7日に両議会でも可決された。

協議において示された財政計画では、合併による削減効果と国からの財政支援（改正合併特

例法により、同年3月末までに合併の申請を行えば、合併特例債などの優遇措置が受けられることになっていった）により、10年間で約120億円の財政効果が見込まれた。

- ・合併による削減効果 約53億円
- （人件費における削減効果・約56億円、事務経費等における削減効果・約6億円、住民負担の軽減による影響額・約マイナス9億円）
- ・国からの財政支援 約63億円
- （合併特例債の償還金分・約44億円、特別交



法定合併協議会

付税・約9億円、合併直後の臨時的経費に係る財政支援・約6億円、合併市町村補助金…約4億円）

両首長らは2月18日、県庁に上田清司知事を訪ね、合併申請書（「上福岡市及び入間郡大井町の廃置分合について」）を提出した。7月の埼玉県議会での合併承認、8月の総務大臣による合併の告示を経て、10月1日に上福岡市・大井町の合併が実を結ぶことになった。（資料「合併関係資料」参照）

第2節 ふじみ野市誕生

■ 新市誕生までの経緯

新市名 平成16（2004）年11月15日の第1回法定合併協議会で、新市の名称を公募することが決まった。期間は12月1日から20日まで、選定の基準は①まちの特徴を表し、1市1町の地域が容易にイメージできる名称、②1市1町の地域の地理・歴史・文化にちなんだ名称、③住民等の理想・願いにちなんだ名称であった。応募総数は2118件に及び、翌年1月の第4回協議会に提案された新市名の中から、協議会委員による投票の結果、新市の名称は「ふじみ野市」に決定した。これは応募総数の実に62%を占めていた。ちなみに候補に挙げた新市名は「栄市」「大福市」「大井福岡市」「西さいたま市」「東入間市」などであったが、得票は1割に満たなかった。

合併協定調印式 平成17（2005）年1月26日、上福岡市勤労福祉センターにおいて、上田清司埼玉県知事ら列席のもと、武藤博上福岡市長と島田行雄大井町長との間で合併協定調印式が行われた。合併協定書は6回にわたる任意協議会、6回にわたる法定協議会での協議結果をまとめたもので、これらの協定項目を両首長



合併協定調印式



調印書

県議会議員、市民など約400人が集まった。古代から現在までを紹介する「悠久の歴史いしずえにいま新たな鼓動」のスライド上映、武藤博市長のあいさつ、上福岡合唱連盟と出席者全員での「故郷」の合唱と続き、最後に市旗が納められた。

が確認する意味で行われた。上田清司知事からは「健康・安心・生きがい」というテーマで新しいまちづくりを進めるといふ、未来志向で結集されたことは、大変ありがたい。県の立場で一生懸命応援させていただく」との祝辞があった。

閉市・閉町式 新市誕生を目前に控えた平成17（2005）年9月27日、上福岡市閉市式典が行われた。会場の上福岡市勤労福祉センターホールには市議会議員、地元選出の国会議員、

職員などが参加し、武藤博市長、細井地久市議会長のあいさつのち、市旗が降納され33年間の上福岡市の歴史に幕を下ろした。

大井町では9月25日に閉町式典が大井中央公民館ホールで開かれた。町議会議員、地元選出の国会議員、県議会議員、町民ら約500人が出席。島田行雄町長のあいさつのち、町内3つの中学校の生徒代表がメッセージを読み上げた。大井町少年少女合唱団、大井しらゆりコーラス・大井町もくせい大学音楽部による合唱の



本庁舎での開庁式



大井総合支所での開庁式



ふじみ野市章

と移り変わる様
は、まちと自然の
調和を図り躍進す
るふじみ野市を表
している。
本市では、制定
に先立つ同年1月
に市章の募集を開
始した。全国から

のち、出席者全員で「故郷」を合唱し、式典の幕を閉じた。
9月30日には午後5時10分から役場玄関前で開庁式が開かれ、町長、町議会議員、町職員のほか多くの町民が参加した。島田行雄町長と高野正得町議会議長があいさつ、大井町消防団の協力により町旗が降納され、45年の歴史に幕を閉じた。
開庁式 平成17（2005）年10月1日、人口10万3090人、世帯数4万2170世帯、総面積14・67㎢（後に14・64㎢に変更）の新市「ふじみ野市」が誕生した。なお、同日、旧市

町の双方にあった地名「中央」はそれぞれ「福岡中央」と「大井中央」に、「武蔵野」は「福岡武蔵野」と「大井武蔵野」に変更した。市役所は旧上福岡市役所を本庁舎、旧大井町役場を大井総合支所とした。なお、水道部と教育委員会については支所に配置した。
開庁式はそれぞれの庁舎を会場として開かれた。ふじみ野市役所本庁舎では午前9時から、市議会議員、市職員、市民など約150人が参加して玄関前で行われた。武藤博ふじみ野市長職務執行者（旧上福岡市長）は、新しい時代の第一歩を踏み出したこと、旧市町の特徴を生か

しながら「合併してよかった」と評価してもらえよう力強く歩むことを宣言した。来賓のあいさつに続いて、入間東部地区消防組合消防音楽隊のファンファーレを合図に、玄関^{ひさし}庇部分に設置された銘板「ふじみ野市役所」の除幕、テープカットが行われた。
午前11時からは大井総合支所で開庁式が開かれ、ふじみ野市長職務執行者のあいさつ、銘板除幕、テープカットが行われた。上福岡駅に近い一番街商店街では、開市を祝って誰でも参加できるジャンボ巻きさしづくりに市民が挑戦するイベントも開かれた。
市章の制定とふじみ野市誕生記念式典 本市の市章は、平成18（2006）年4月1日に制定された。ふじみ野市の「F」の文字を基調に、輪は市民相互の融和を表し、舟運の面影を残す新河岸川の青と武蔵野の自然をイメージした緑を配し、さらに萌え出る若葉から鮮やかな緑へ

804点の応募があり、選定委員会の審査を経て、工藤和久さん（青森県弘前市）の作品に決定した。公募による市章の制定は、「ふじみ野市」を広くアピールする目的もあった。

また、平成18（2006）年5月14日には、上福岡市勤労福祉センターで、ふじみ野市誕生記念式典が開かれた。市章のお披露目後、島田行雄市長が「誰もが住みたいと思える市をめざしたい」と式辞を述べ、来賓の上田清司知事は「ロマンとそろばんを持つて新しいまちづくりによる発展を」とあいさつした。アトラクションでは尚美学園大学生のジャズ演奏や文京学院大学生の歌に合わせながら手話をする「手話コーラス」が行われ、式典に花を添えた。

■ 新市建設計画

合併協議を進める中では、合併の方向性や合併後のまちづくりのすがたが議論されてきた。「新市建設計画」は合併特例法により、関連市町村が合併前に策定することが義務付けられている。新市運営のマスタープランであり、まちづくりの基本となるものである。

新市建設計画では合併前市町の概況や、新市の基本方針、施策の体系や方向性の整理、財政計画などを定めている。

策定にあたっては各市町の関係者により構成された法定合併協議会にて作成方針を定めた上

で行い、5回の会議を経て内容を検討し、承認された。会議の中では自治体規模が大きくなることに伴う施策の拡充や、人口推計と財政計画の関連など、さまざまな議題について意見が交わされた。

計画においては、新市の将来都市像として「健康安心 生きがい都市」を掲げた。また、「みずからの健康管理を高め、だれでもが健康で明るい暮らしができる環境を確保し、福祉サービスなどを通して相互に支え合い、生きがいをもって生活できる都市をめざす」ことがうたわれた。

新市建設の策定方針と具体的プランの骨子は以下のよう定められた。

〈計画の策定方針〉

上福岡市と大井町の合併後の新市を建設していくための基本方針を定めるとともに、これに基づく建設計画を策定して実現に努めることにより、両市町の速やかな一体性の確立及び地域の均衡ある発展、住民福祉の向上を図ります。

〈計画期間〉

平成17（2005）年度から平成26（2014）年度までの10か年。

〈基本理念〉

- 1 環境と調和したまちづくり
- 2 住民の創造性を育むまちづくり
- 3 パートナーシップによるまちづくり

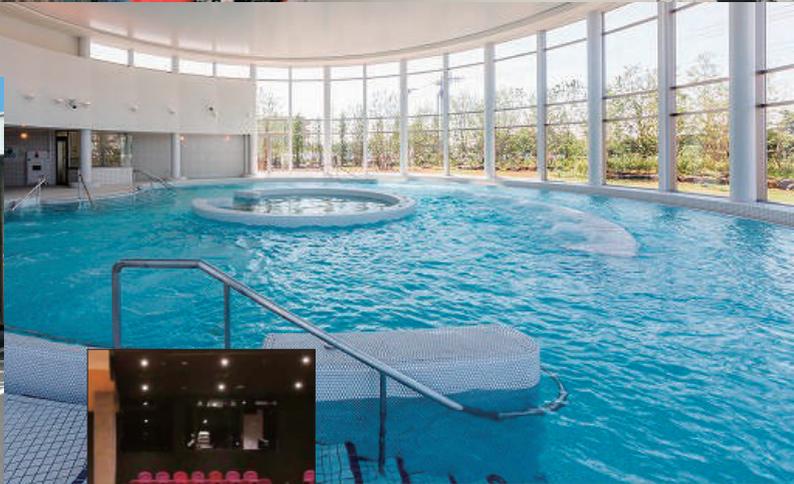
〈将来都市像を達成するための5つの基本方針〉

- 1 【自然・まちづくりの分野】
環境にやさしい安全・安心なまちづくり
- 2 【教育・文化の分野】
夢のある心豊かなまちづくり
- 3 【くらしの分野】
個性輝く活力あるまちづくり
- 4 【健康・福祉の分野】
生涯安心して暮らせる福祉のまちづくり
- 5 【行財政・コミュニティの分野】
スリムで効率的な協働のまちづくり

「市報ふじみ野」創刊号（平成17年10月）には、市全体をオーケストラにたとえ、新市が新たな一歩を踏み出したことと、希望にあふれたまちづくりに取り組む決意が述べられている。そこには「新市建設計画」を楽譜とし、組曲「健康安心 生きがい都市」という新たな夢を紡ぐ演奏がスタートした。もちろん、オーケストラの編成者は市民であると、高らかにうたわれている。

こうして新市「ふじみ野市」が誕生して20年を迎え、その間社会情勢は目まぐるしく変化してきた。誕生から今日に至るまで、「ふじみ野市」が社会の変化にどう対応し、どう歩みを進めてきたのか、以下、本市史では合併から20年間の軌跡をたどっていく。

ふじみ野市 クロニクル Fujimino chronicle 2005→2025



10月1日「ふじみ野市」誕生
ふじみ野市民文化祭がスタート
ココネ上福岡まちびらき

2005

平成 17 年 度

- 10月1日 ふじみ野市誕生（開庁式）¹
教育相談室 設置
- 10月21日（第1回）ふじみ野市民文化祭 上福岡市民文化祭／
おいしい文化祭 開催
- 10月 市民スポーツフェスティバル（東地区・西地区）
開催
- 10月 家庭児童相談室 設置
- 水道部が大井総合支所へ移転
- 11月13日 初代ふじみ野市長に島田行雄氏就任²
- 1月9日 市初の成人式³
- 2月 ふじみ野市消防団 設立
- 3月30日 ココネ上福岡でまちびらきセレモニー 開催⁴
- 3月31日 東久保土地区画整理記念公園 完成⁵
- 3月 サービスセンター自転車駐車場と上福岡駅西口
駐車場に指定管理者制度を初めて導入



この年度（10月以降）▼日
本道路公団分割民営化▼耐震
強度偽装事件▼日本郵政株式
会社発足▼トリノ五輪（荒川
静香金メダル）▼野球 WBC
日本が初代王者に▼「想定内」
「萌え」が流行語に

2007

平成 19 年 度

老人クラブや町会・自治会など
新市の統合組織が相次いで設立される

- 4月1日 行 ふじみ野市環境基本条例施行
- 4月22日 オープン（4か所）
合併後初のふじみ野市議会議員一般選挙（定数26）
- 5月1日 県内の全市町村と災害時における相互応援に関する基本協定を締結
- 5月15日 会設立❶ ふじみ野市老人クラブ連合会
- 5月19日 会設立❷ ふじみ野市町会・自治会連合会
- 5月21日 くり推進連絡会設立❸ ふじみ野市コミュニティづくり推進連絡会
- 6月1日 障害者就労支援センターを大井総合福祉センター内に設置❹
- 7月12日 議設立❺ 青少年育成ふじみ野市民会議
- 3月14日 富士見市・三芳町と相互援助に関する基本協定を締結
- 3月28日 化工事完了❻ ふじみ野駅東口にエレベーター設置、西口の駅ビル内スロープバリアフリー



この年度 ▼ 国民投票法成立
▼ 米国でサブプライムローン問題が顕在化 ▼ 新潟県中越沖地震 ▼ 安倍首相が辞意を表明し福田首相就任 ▼ 郵政民営化スタート ▼ 宙に浮いた年金記録問題が発覚 ▼ 「どげんかせんといかん」「○○王子」が流行語に

しののめの里オープン
市子連、ふあいぶるクラブが発足

2008

平成 20 年 度



4月1日 ふじみ野市総合振興計画 スタート

4月 水道料金制度を変更、料金制度などを統一

5月1日 鶴ヶ岡複合施設 オープン¹

5月 ふじみ野市子ども会育成団体連絡協議会（市子連）設立

6月3日 入間東部広域斎場・火葬場しののめの里オープン²

7月24日 都市計画道路桜通線が開通³

3月29日 休日開庁開始（年度変わりの2日間 3月29日、4月5日）⁴

3月31日 上福岡駅南口にエレベーターが完成⁵

3月 総合型地域スポーツクラブふじみ野ふあいぶるクラブ 設立

この年度 ▼中国四川省大地震

▼岩手・宮城内陸地震▼秋葉原無差別殺傷事件▼リーマンショックが世界金融危機の発端に▼福田首相が辞職し麻生内閣発足▼米大統領選挙でバラク・オバマ当選▼「アラフォー」「上野の413球」が流行語に



東台小学校が開校
福岡中央公園リニューアルオープンに続き
上福岡駅の整備とバリアフリー化が完成

2009

平成 21 年 度

- 4月1日 市民相談室設置
- ふじみ野市社会福祉協議会設立¹
- 東台小学校開校（市内13校目）
- 6月1日 リサイクル工房オープン²
- 6月23日 福岡中央公園リニューアルオープン³
- 6月28日 休日開庁を拡充、毎月最終日曜日に実施
- 7月1日 こども医療費支給制度を開始
- 8月 第1回福岡河岸まつり開催
- 10月2日 放課後子ども教室スタート
- 10月30日 上福岡駅改札口からホームに昇降するためのエレベーターが完成⁴
- 11月3日 上福岡・大井地区初の合同産業まつり開催
- 11月13日 ふじみ野市長に高畑博氏就任⁵
- 2月7日 川崎橋の更新工事が完成⁶
- 3月30日 上福岡駅北口にエレベーター、上福岡駅構内に多目的トイレが完成
- 3月 ふじみ野市都市計画マスタープラン策定
- ふじみ野市観光ガイドマップ発行



この年度 ▼イチロー「日米通算安打で日本プロ野球記録達成」▼裁判員制度スタート▼衆議院議員選挙で民主党大勝し政権交代▼消費者庁発足▼男子ゴルフ石川遼史上最年少賞金王に▼日本年金機構発足▼ハイチで大地震▼「事業仕分け」「派遣切り」が流行語に

タウンミーティングがスタート
東日本大震災では被災地を支援
PR大使に「ふじみん」デビュー

2010

平成 22 年 度

- 4月1日 上福岡駅の出口の名称、東口と西口に変更
- 4月 ふじみ野市商工会設立
- 4月 健康保険課の窓口業務を民間業者に委託
- 6月5日 駒林土地区画整理地内の住居表示が「駒林元町」に決定
- 6月21日 「タウンミーティング」スタート
- 7月1日 市内循環バス全域で運行開始（4系統8コース）
- 9月19日 市長と語る「ふれあい座談会」スタート
- 10月1日 ふじみ野市平和都市宣言
- 10月 公開事業評価実施
- 11月1日 支え愛センター開所
- 3月11日 東北地方太平洋沖地震発生（給水車の巡回、自主避難者へ施設開放と非常食配給を実施）
- 3月14日 福岡河岸記念館が埼玉県指定の景観重要建造物第1号に指定される
- 3月15日 公共施設予約システムスタート
- 3月17日 「ふじみん」をふじみ野市PR大使に任命



この年度 ▼大相撲で力士による野球賭博が発覚▼小惑星探索機はやぶさ帰還▼チリ鉱山落盤事故で全員救出▼尖閣諸島沖で中国漁船が海上保安庁巡視船に激突▼東北新幹線全線開業▼東日本大震災、福島第一原発事故▼「イクメン」「女子会」が流行語に

路上喫煙防止条例を施行
ふじみ野Fメール配信始まる

2011

平成 23 年 度

4月24日

ふじみ野市議会議員一般選挙(定数21)

4月

一時保育で子育てを支援、
病児・病後児・緊急サポート事業開始

6月1日

ふじみ野市路上喫煙の防止
及びまちをきれいにする条例施行

ふじみ野市メール配信サービス(ふじみ野Fメール)開始

9月1日

市民農園事業(東台第一、
駒林第一)開始

9月26日

大井総合支所、仮設庁舎で
業務開始。教育委員会と都市政策部が移転

10月3日

子育てサロン(第2鶴ヶ丘
子育てサロン・東台子育て
サロン)開始



1



2



3

この年度 ▼女子サッカーW杯でなでしこジャパン優勝▼地上デジタル放送に完全移行▼菅内閣辞職、野田内閣発足▼タイで大洪水発生▼英国ウィリアム王子とキャサリン妃結婚▼貿易収支が30年ぶりに赤字に▼復興庁発足▼国内初の格安航空会社(LCC)就航▼「帰宅難民」風評被害が流行語に

ふじみ野寺子屋とさくらまつりがスタート
住みよさランキングの県内1位に選出

2012

平成 24 年 度



- 4月1日 ふじみ野市水道サービスセンター設置
- 8月21日 小学5・6年生を対象にふじみ野寺子屋を開始①
- 12月2日 第1回総合防災訓練（県内初の全市民参加型）実施②
- 3月24日 第1回さくらまつり開催③
- 3月 県立大井高等学校・福岡高等学校閉校④
- この年度 「住みよさランキング」（東洋経済新報社）において埼玉県1位に選出
小中学校の耐震化工事完了



この年度 ▼関越自動車道で夜行バス事故▼国内の原発が全て運転中止に▼東京スカイツリー開業▼オスプレイが普天間飛行場に配備▼尖閣諸島を国有化▼東京駅丸の内駅舎復元工事完了▼中央自動車道笹子トンネル天井板崩落事故▼衆議院選挙の結果政権交代へ、安倍内閣発足▼「ワイルドだろお」「終活」が流行語に

統合校「ふじみ野高校」開校
市民憩の森と大井総合支所がオープン
消防本部・消防署も新庁舎に

2013

平成 25 年 度

4月1日

ふじみ野市総合振興計画後期基本
計画スタート

4月8日

県立ふじみ野高等学校開校¹

4月

市内中学校全校に「いじめ等対応
支援員」を配置

7月6日

子ども大学ふじみの開校²

7月15日

市民憩の森オープン³

7月28日

ふじみ野市応援ソング「羽ばたけ
ふじみん」完成⁴

8月1日

入間東部地区消防組合消防本部、西消
防署の庁舎が完成⁵

8月5日

大井総合支所がオープン、市民相談コー
ナー「オアシス」設置。2階に保健セ
ンター分室、多目的ホール「ゆめぼろ
と」、3階に西児童センター開館⁶

11月13日

高畑博氏がふじみ野市長2期目就任

2月28日

老人福祉センター「太陽の家」閉館



この年度 ▼三陸復興国立
公園設置 ▼国の借金残高
が1000兆円を突破 ▼
2020年五輪の東京開催決
定 ▼特定秘密保護法成立 ▼S
TAP細胞の論文不正が発覚
▼ロシアがクリミアを併合 ▼
日本一高いビルあべのハルカ
ス完成 ▼「今でしょ」倍返し
「じゃじゃええ」おもてなし
が流行語に

環境センターに「エコパ」オープン
「元気・健康都市宣言」

2014

平成 26 年 度



- 4月1日 ふじみ野市配偶者暴力相談支援センター開設
- 6月17日 ふじみ野市・三芳町環境センター余熱利用施設「エコパ」オープン¹
- 6月26日 ふじみ野市自治基本条例施行
- 6月30日 市内全小中学校の教室にエアコンを設置²
- 1月5日 元気・健康都市宣言³
- 1月15日 防犯カメラ等を併設した自動販売機の設置及び管理に関する協定を締結
- 2月16日 亀久保はやしが市指定の無形民俗文化財に指定される⁴
- 3月10日 防災行政無線統合化等工事完了
- この年度 「ごみの少ない市」県内1位（平成30年度まで5年連続）⁵



この年度 ▼消費税率8%に引き上げ▼韓国客船セウォル号沈没事故▼広島で豪雨による土砂災害発生▼御嶽山噴火▼香港で雨傘革命▼自称イスラム国が日本人2人を拘束▼北陸新幹線金沢延伸▼「壁下」▼「マタハラ」が流行語に

ふじみ野市誕生から10周年
子どもいじめ防止条例、文化・スポーツ振興条例、
男女共同参画推進条例を施行

2015

平成 27 年 度

- 4月1日 ふじみ野市児童発育・発達支援センター開所¹
- 4月5日 大井清掃センター跡地に多目的グラウンドオープン²
- 4月26日 ふじみ野市議会議員一般選挙
- 4月 福祉総合支援チーム設置
- 6月 ふじみ野市地域公共交通活性化協議会発足
- 7月1日 ふじみ野市子どもいじめ防止条例施行
- 9月29日 ふじみ野ブランド産品に10品目決定
- 10月1日 ふじみ野市文化・スポーツ振興条例施行
- ふじみ野市男女共同参画推進条例施行
- 10月4日 ふじみ野市誕生10周年記念式典³
- 10月19日 市内全小学校に放課後子ども教室を設置
- 1月9日 ふじみ野郷土カルタ大会開催⁴
- 2月26日 ふじみ野市ふるさとハローワークオープン⁵
- 3月31日 本庁舎整備事業完了



2



3



1



5



4

この年度 ▼東京都渋谷区で全国初の同性パートナー条例施行▼米国・キューバが国交回復▼関東東北豪雨で鬼怒川が決壊▼安全保障関連法成立▼マイナンバー法施行▼CO P21でパリ協定締結▼日銀がマイナス金利政策を導入▼全国でふるさと納税が盛んに▼北海道新幹線開業▼「爆買い」「トリプルスリー」が流行語

市民大学ふじみ野が開校
環境センター稼働、「えこらぼ」オープン

2016

平成 28 年 度

4月1日

なの花学校給食センター稼働¹

人間東部シルバー人材センター設立

お出かけサポートタクシー事業スタート

5月

ふじみ野市子育てガイドブック作成、6月には電子書籍版をリリース²

7月

ふじみ野版ふるさと納税が本格的にスタート

8月28日

第37回九都県市合同防災訓練実施³

10月2日

アートフェスタふじみ野開催

10月29日

市民大学ふじみ野開校

10月31日

ふじみ野市・三芳町環境センター稼働⁴

11月

環境学習館「えこらぼ」オープン（「えこらぼ通信」発行）

3月

武蔵野の落ち葉堆肥農法が日本農業遺産に認定される

この年度

ふじみんぴんしゃん体操を考案⁵



この年度 ▼熊本地震▼オバマ大統領が広島訪問▼選挙権18歳に引き下げ▼相模原市の障害者施設で殺傷事件▼天皇陛下が生前退位の意向表明▼8月11日が山の日に▼糸魚川市で大規模火災▼米大統領にドナルド・トランプ当選▼この年の出生数が百万人を割る▼ポケモンGOが国内外で大ヒット▼「神ってる」「アモーレ」が流行語に

ふじみんアリーナおりひめ、
運動公園テニスコートがリニューアルオープン
台風21号豪雨災害が発生

2017

平成 29 年 度



1



2

- 4月1日 市内循環ワゴン「ふじみん号」本格運行開始¹
- 7月15日 第1回エコラボフェスタ開催²
- 8月19日 ふじみ野産文フェスタ開催
- 10月14日 総合体育館ふじみんアリーナおりひめリニューアルオープン³
- 10月22・23日 台風第21号による豪雨災害
- 11月13日 高畑博氏がふじみ野市長3期目就任
- 3月1日 運動公園テニスコートリニューアルオープン⁴
- 3月22日 子育て応援手帳「子育てYELL」作成



3



4

この年度 ▼上野動物園でパ
ンダ誕生▼九州北部豪雨▼核
兵器禁止条約採択、日本は不
参加▼地質時代に「チバニア
ン」命名▼製造業大手の検査
データ不正などが発覚▼ミヤ
ンマーでロヒンギャ難民が急
増▼「インスタ映え」「村度」
が流行語に

ふじみんアリーナひこぼしオープン
令和時代を見据えて将来構想がスタート

2018

平成 30 年 度



4月1日 「ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画」がスタート

4月2日 大井子育て支援センターオープン

4月22日 第2運動公園体育館ふじみんアリーナひこぼしオープン

4月 人間東部地区衛生組合と人間東部地区消防組合が統合し人間東部地区事務組合発足

ふくし総合相談センター設置

5月 子育て親育ちガイド「FUJIMINO」作成

6月27日 ふじみ野市議会基本条例施行

11月4日 スポーツセンターテニスコート、弓道場リニューアルオープン

3月 集中管理型の倉庫として防災備蓄品管理倉庫を建設

この年度 ▼史上初の米朝首脳会談▼西日本各地で記録的豪雨災害▼北海道胆振東部地震▼大坂なおみテニス全米オープン優勝▼豊洲市場開場▼日産自動車会長カルロス・ゴーン逮捕▼TPP発効▼イチョー現役引退▼#MeToo運動が広がる▼「そだねー」「半端ないって」#MeToo」が流行語に

運動公園のスポーツ設備が続々オープン
再び見舞われた台風被害と
忍び寄る新型コロナウイルスの脅威

2019

令和元年度

- 4月1日 介護予防センターオープン¹
- 運動公園にフットサルコート・3
×3コートオープン²
- 4月15日 ふくし総合相談センターにじいろ
を介護予防センターに設置
- 4月21日 ふじみ野市議会議員一般選挙
- 5月24日 ふじみ野市昭和100年大学開校
- 6月8日 余熱利用施設「エコパ」、来館者
数が100万人を突破³
- 10月6日 子ども議会開催⁴
- 10月12日 台風第19号による豪雨被害
- 11月1日 第2運動公園多目的球場オープン
- 3月27日 新型コロナウイルス感染症対策本
部設置
- 3月 新たなふじみ野市都市計画マス
タープラン策定



この年度 ▼パリのノートル
ダム大聖堂炎上▼天皇陛下が
退位し令和に改元▼香港で大
規模デモ▼京都アニメーション
放火事件▼東日本で台風被
害相次ぐ▼ラグビーW杯で日
本8強▼消費税率10%に▼首
里城火災▼英国がEU離脱▼
「計画運休」タビる「闇営業」
が流行語に

パンデミックに翻弄された1年
七夕まつりやおおい祭りなど相次ぐ中止

2020

令和 2 年 度

- 4月1日 成年後見センター設置
- 4月7日 埼玉県を含む7都府県に新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言が発出される(5月25日解除)¹
- 6月1日 分散登校による小中学校の再開
- 10月 市民課で「書かない窓口」を開始(出張所では令和3年10月から)²
- 11月 運動公園に子ども広場オープン³
- 1月8日 2度目の緊急事態宣言が発出される(3月21日解除)
- 2月1日 ふじみ野市新型コロナウイルスワクチン接種推進チーム設置
- 3月1日 ふじみ野市新型コロナウイルス接種サポートセンター設置
- この年度 タブレット端末の全児童生徒への配備完了⁴
- 市内全小中学校に地域協働学校設置⁵

新型コロナウイルス 感染拡大防止のため

基本的な対策

を徹底しましょう

NO! 3密
密閉・密集・密接

手洗いうがい

マスク着用

ふじみ野市



この年度 ▼新型コロナウイルス感染症によるパンデミックが全世界で猛威▼東京五輪の1年延期が決定▼民間の有人宇宙船がISSに到達▼米国内で人種差別抗議デモが広がる▼九州で豪雨災害▼「鬼滅の刃」が大ヒット▼「三密ニアマビエ」ソロキャンパ」が流行語に

2021

令和3年度

引き続きコロナ禍の中ワクチン接種を開始
待望の「ステラ・イースト」がオープン



4月1日

ふじみ野市障がい者総合相談支援センター「りあん」設置

ふじみ野ステラ・イースト多目的棟リニューアルオープン

新型コロナウイルススワクチン集団接種を開始

7月6日

東京2020オリンピック聖火リレーが市内を走る

7月15日

上福岡駅東口横断歩道橋が開通

8月2日

3度目の緊急事態宣言が発出される(9月末解除)

10月

ふじみ野市SDGs推進方針策定

11月13日

高畑博氏がふじみ野市長4期目就任

2月

市内の全小中学校の体育館に空調設置完了



3



1



5



4

この年度 ▼ゴルフのマスターズで松山英樹優勝▼熱海市で大規模土石流が発生▼東京オリンピック・パラリンピックが1年延期して原則無観客により開催▼アフガニスタン駐留米軍完全撤退、タリバン政権発足▼大谷翔平が二刀流で大リーグのMVP獲得▼ロシアがウクライナに侵攻▼「親ガチャ」「Z世代」「推し活」が流行語に

こどもの未来を育む条例を施行
ゼロカーボンシティ宣言を表明

2022

令和4年度

4月1日

ふじみ野市中小企業及び小規模企業振興基本条例施行

ふじみ野市こどもの未来を育む条例施行

公の施設として児童発育・発達支援センター設置

ふじみ野市デジタルトランスフォーメーション推進方針策定

企業版ふるさと納税受け入れスタート

6月

新第3庁舎オープン

7月1日

ふじみ野市パートナーシップ宣誓制度開始

10月1日

ふじみ野市ゼロカーボンシティ宣言

3月20日

上沢勝瀬通り線開通式



この年度 ▼成人年齢18歳に
▼知床沖で観光船沈没事故▼
▼安倍元首相銃撃され死亡▼五
輪汚職で組織委員元理事らを
逮捕▼エリザベス英女王死去
▼ヤクルト村上宗隆最年少三
冠王▼韓国で雑踏事故発生▼
トルコ地震▼円安と資源高に
よる物価高騰▼旧統一教会が
政治問題化▼「メタバース」
「インボイス制度」「宗教2世」
が流行語に

2023

令和5年度

コロナ禍がようやく収束へ
文化協会発足、「ステラ・ウェスト」オープン

- 4月1日 例施行
ふじみ野市犯罪被害者等支援条
守る条例施行
- 4月23日 4月29日
ふじみ野市議会議員一般選挙
ふじみ野市文化協会設立
- 5月8日
「ふじみ野音頭」「We Love♡ふ
じみ野」完成
- 6月
新型コロナウイルス感染症の「5
類」移行に伴い「公共施設利用
における基本方針」と施設ごと
のガイドライン廃止、新型コロナ
ウイルス感染症対策本部廃止
- 7月5日
武蔵野の落ち葉堆肥農法が世界
農業遺産に認定される
- 10月2日
ふじみ野市電子図書館オープン
- 11月4日
ふじみ野ステラ・ウェストオー
プン、大井図書館がステラ・ウェ
ストに移転
- 12月
大井総合支所で「書かない窓口」
開始



この年度 ▼WHOが緊急事
態解除、国内では5類移行▼
広島でG7サミット開催▼イ
スラエルがガザ地区攻撃開始
▼性加害でジャーニーズ事務所
解体▼藤井聡太が史上初の将
棋八冠▼能登半島地震▼日航
機と海保機衝突事故▼出生数
が初の80万人割れ▼「生成A
I」「闇バイト」「オーバーツー
リズム」が流行語に

20周年へ向けた企画がスタート
上福岡図書館リニューアルオープン

2024

令和6年度

4月

「ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 後期基本計画」スタート

こども医療費の助成対象年齢を18歳年度末までに拡大

ふじみ野市創業支援事業ステップアップ補助金創設

ふじみ野市総合防災情報システム導入①

ふじみ野キッズランド開催②

20周年記念事業のクラウドファンディング実施③

上福岡図書館リニューアルオープン④

2月1日

10月

10月20日

9月



この年度 ▼20年ぶり新紙幣発行▼「SHOGUN」が米エミー賞で18冠▼被団協がノーベル平和賞受賞▼衆院選で与党が過半数割れ▼大谷翔平史上初の50-50達成で2年連続MVP▼韓国大統領が「非常戒厳」宣言後に拘束▼米大統領にドナルド・トランプ再当選▼闇バイト強盗続発▼「裏金問題」「新NISA」「カスハラ」が流行語に

ふじみ野市誕生から20年

2025

令和7年度



- 4月1日 開始 ふじみ野市防災情報ポータル運用
- 東原・東台小学校統合
- 9月27日 ふじみ野ステラ・イーストホール棟リニューアルオープン
- 10月1日 ふじみ野市誕生20周年



この年度 ▼米国が「相互関税」導入を発表▼大阪・関西万博開催▼フランシスコ教皇が死去、新教皇にレオ14世